

# 問 理系行政官はどのように「国民の命」を守るのか。

消防庁では、国民の一人ひとりが消防防災を強く意識し、災害に決して揺るぐことのない社会の構築に貢献するため、常に人命優先の立場から、火災、地震、風水害など各種災害による死傷者の発生を最小限にとどめるための努力を続けています。このパンフレットでは、消防庁の理系行政官がどのように「国民の命」を守っているのかを紹介していきます。

# 答 消防防災の専門家として、様々な専門家の力を「チームの力」に変える。

消防防災に関する制度づくりには、「国民の命」を守る現場の意見が不可欠です。また、国全体を動かすダイナミックな制度づくりには、他省庁との連携や法律や地方自治に関する深い知見も必要となります。そのため、消防庁では様々な経歴を持つ職員が、それぞれの機関から派遣され、専門知識を活かして一緒に働いています。例えば、消防の現場で活躍する消防吏員や地域の防災を担当する市町村・都道府県の職員、地方自治や行政評価を専門とする総務省の職員、医師免許を持った厚生労働省の職員、看護師などがいます。さらに、国

の機関である消防研究センターには、研究官として採用された職員も多くいます。消防庁の理系行政官は、現場の意見を正確に理解した上で施策に反映させるため、入庁して数年で地方の消防本部へ出向し、消防防災行政の基礎的な知識を身につけています。また、国の行政官として、政策実施のための知識を日々の業務から修得しています。消防庁の理系行政官は消防防災の専門家として現場の知見と国の行政官としての知見の両方を使って、様々な経歴を持つ職員を「チームの力」に変える橋渡しの役割を担っています。

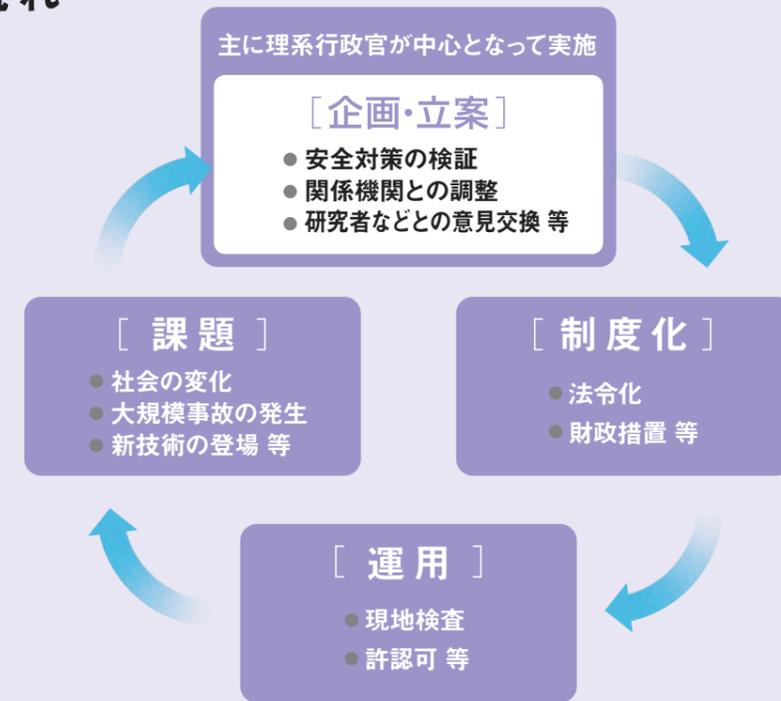


# 答 理系の知見を有する行政官として、「合理的な安全対策」を提示する。

高齢化社会の到来や新エネルギーの出現、ICTの活用など、社会の大きな流れの中で、それに対応した合理的な安全対策が求められています。合理的な安全対策の検討は、消防庁の理系行政官が中心となって、科学的な根拠をもとに、安全的にも経済的にも合理的な結果を導きます。安全対策の検証は、消防研究センターの研究官や関係メーカーなどと協力して進めるので、研究者や技術者と議論するための理系

の素養と、合理的な安全対策を関係者に説明する行政官としての技量が求められます。安全対策の検証結果は、有識者や消防本部を含む検討会で議論し、法律などの制度となって世の中に広まります。消防庁の理系行政官の醍醐味は、自分が構築した制度が社会インフラの一部になっているのを確認できることであり、その面白さを実感しながら仕事をしています。

## 業務の流れ



### 候補物質調査結果

CAS No.	名称(国)	化学構造式(国)	用途(国)	性状等(国)
100-44-7	化学薬品	<chem>c1ccc(cc1)C#N</chem>	染料・合成樹脂・香料の合成原料、医薬品及び農薬の中間体、緩衝剤、有機合成反応の阻害剤として使用。	性状：無色～淡黄色の結晶性粉末。融点：119℃。沸点：43℃。引火点：67℃ (n.e.)
124-63-0	化学薬品	<chem>CC(=O)OC</chem>	燃料添加剤、工業用溶剤、塗料の成分、農薬用化学原料、脱色剤、脱色剤、脱色剤、脱色剤として使用。	性状：無色～淡黄色の結晶性粉末。融点：182℃。沸点：102℃。引火点：110℃ (n.e.)
79-14-1	化学薬品	<chem>OC(O)C</chem>	皮膚・毛のケア製品(化粧品)、洗剤、塗料の原料、塗料の原料、塗料の原料として使用。	性状：無色の結晶性粉末。融点：100℃で分解。沸点：100℃。引火点：-

「消防活動阻害物質」候補物質調査結果

石油タンクのFEM解析

埼玉県三芳町倉庫火災を想定した実験